

# 来年の製品化を目指す

成嶋セルジオ正章さん（社 べての人に健康と福祉を」、  
会福祉4）を代表とする学生「産業と技術革新の基盤をつ  
団体「komorebi」がくろう」、「つくる責任つか  
取り組んできた「アイ棒」プロ 責任」を達成しうるプロジ  
ジェクト」が、このほど「2 エクトとして評価された。  
021りそなSDGsアイデ 「アイ棒」とは、白杖に装  
アコンテスト」で優秀賞、 着して使用するナビゲーショ  
「大学SDGs ACTION ンデバイスで、白杖を使用す  
AWARDS2022」で 視覚障害者にとって難しい  
準グランプリ（出光興産賞） 「初めての場所へ行く」こと  
を受賞した。 をサポートする。使い方は、

SDGs（持続可能な開発 白杖のシャフト部分に取り付  
目標）17の目標のうち、「す けたアイ棒とスマートフォン  
をサポ

視覚障害のある人へ移動の  
自由と楽しさを提供すること  
を目的に始めたという同プロ  
ジェクト。年内に試作品の完  
成と検証を行い、来年の2月  
から3月にかけて製品の完成  
を目指す。成嶋さんは「この  
プロジェクトの存在や理念を  
多くの人に知ってほしい」と

をBluetoothで接続  
し、専用のアプリに目的地を  
入力する。ナビゲーションを  
開始すると、スマートフォン  
からアイ棒にナビ情報が送信  
され、アイ棒が異なるリズム  
で振動することによって使用  
者はナビ情報を直感的に理解  
できる。  
従来は、音声によるナビ情  
報を活用していたため、周囲  
の音に気付かず事故の危険性  
が高かった。しかし、アイ棒  
を用いることで聴覚を遮断す  
ることなく移動でき、初めて  
の場所を訪れることへの抵抗  
感が軽減される。



表彰状を持つ成嶋さん(右)  
と副代表の佐藤さん

話した。